
● ☆ ●

【仁和寺・木屋】

● ☆ ●

堤下 清 さん (78才)

B29がばらまき空中で破裂してばらばらと落ちてくる六角筒焼夷弾が、仁和寺と葛原の境にあった田んぼに60発ほど突き刺さっているのを見たことがありました。

私は、何とも思わずにそれをリヤカーに積んで家に持って帰り、門の前の下田に置いたことがありました。

爆弾は仁和寺には落ちていませんが、大日に落ちました。

1月29日、B29が来襲して爆弾を5発落としました。

そのうち1発は村次さん宅に落ち、家は全壊し、家族全員が亡くなりました。

4発は田んぼに落ちました。

後で見ると直径10メートル以上の穴があいていました。

私は、空襲警報が鳴ると、近くの火の見櫓に上がったことがありました。

シュルシュルという音がしたかと思うと、パッパッと火が噴き、高圧線が切れるという光景を見て、これはいつ何時爆弾が落ちてくるかわからない、と思うようになりました。

葛原、仁和寺には焼夷弾が落ちました。

昭和20年6月頃、田植え前によく艦載機が淀川沿いに上がって来ました。

仁和寺では一人だけ、坂口寿一さんの妹さんが不幸な目にあわれました。

妹さんは守口町土居の駅近くにあった松下病院へ看病に行っていて、空襲警報が出て防空壕に逃げようとしているところへ機銃掃射を受けて亡くなりました。

私共は親戚でしたから、母が弔いに行きました。

私より二つ年上で20歳になったばかり、それは二目と見られない変わり果てた姿になっていたと聞きました。

私なども水かき車を踏んで田んぼに水を送っている時など、上空を艦載機が飛んで行くことがありました。

他には中西金属の社宅があった仁和寺の平ノ町に焼夷弾が落ちています。

それが黒原から葛原までつらなって50メートル間隔で焼夷弾を落としていったの